



にしおか やすひこ
西岡 安彦 教授

1988年徳島大学医学部卒業。米ピッツバーグ大学、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部呼吸器・膠原病内科学分野教授などを経て、名称変更に伴い2015年から現職。同大学医学部長兼任。

徳島大学の呼吸器・膠原病（こうげん）病内科学分野の西岡安彦氏は2011年の教授就任以来、人材確保に特に力を注ぎ、12年で約60人の入局者を獲得してきた。成功の背景には、「共感」をキーワードにした教室運営や、スタッフが一丸となって教育に取り組んできたことなどがある。

―教室の強み、特徴は。

強みを有しているのは呼吸器疾患領域で、特に間質性肺炎と肺がんについては最先端の診療を展開していると自負しています。徳島県内だけでなく徳島以外の四国3県、関西、関東にも関連病院があり、約30の病院に医師を派遣しています。医療の進歩に貢献する新たなエビデンスの創出を常に意識してお

り、間質性肺炎や肺がんを中心に、国内では日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）や北東日本研究機構（NEJ）などに加わって医師主導の治験にも取り組んでいます。数多くの国際共同治験にも参加してきました。

ネイチャー系やセル系のジャーナルに複数の研究成果が掲載されており、診療を主とする教室でありながらも基礎研究にも積極的に取り組んでいることが、大きな特徴です。

―教室の運営方針と、心掛けていることは。

全ての病気を完璧に治すことはできず、むしろ治らない病気ばかり診てきました。無力感に苛まれ、自分一人ではできないことの少なさを痛感すると同時に、チームとして成し遂げられることの大き

講座クローズアップ

徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野

個の力を結集させ、最先端・最適な医療の提供を

さを実感してきました。医師になってからのこれらの思いを踏まえて「共感」を座右の銘にしており、教室運営でもチーム力を高めるために「共感」と、そこから生まれる「心のつながり」をキーワードにしています。患者さんやメディカルスタッフ、学生や住民の方々といった私たちに関係する全ての人に当教室が展開する診療・研究・教育に共感・納得してもらい、心でつながれるような組織づくりをしてきました。

また、組織を維持していくためには人材確保が何よりも重要です。学生や初期研修医への教育は、スタッフ全員で取り組んでいます。一部のスタッフだけが担当するのでは不十分で、全体で同じ意識を持って取り組むことを通して、教育熱心な教室を目指しています。

この方針で取り組み、私が教授に就任してからの12年で約60人の入局者を得ることができています。入局者は全国から集まっており、卒後3年目に限らず多様な人材にさまざまな手法でアプローチしていることも、成功の要因だと考えています。

―診療面の課題をどのように解決していきますか。

呼吸器疾患の領域では、四国全体をけん引する役

割を担うために各地域の病院に派遣する医師の数を増やし、より強固な診療体制をつくり上げている段階です。

呼吸器疾患領域では県を越えて広範囲の地域医療に貢献している一方、リウマチ・膠原病の領域では県内の専門医の数が不足しているのが現状です。当大病院に患者さんが集中する状況を打開するために県内の二つの基幹病院にリウマチ・膠原病内科を新たに設置しましたが、今後ともこれを入れなければならぬと考えています。

呼吸器・膠原病内科として、診療レベルの向上も意識しています。若手医師に全国トップレベルの施設での研修を推進し、県民の方々が大阪や東京に行かずとも、一貫して県内で専門的な診療が受けられる体制の構築を図っていきます。

そのためにも人材確保、育成は非常に重要です。最先端の医療、最適な医療を患者さんに届けるという教室のスローガンの下、一人一人の力とチームとしての力を磨き続けたい。スタッフ一人一人を大切に、直接対面して丁寧なコミュニケーションを取りながら十分にチャンスを提供し、チームとしてレベルアップすることを今後も目指します。